

インターロッキングブロック舗装 Technical Report

－ 施工編 － (その3)

Vol.35

1. 路盤の確認

ILブロックを施工する前に行う路盤の確認作業について以下に示します。

路盤についての注意点

- (1) 路盤は適正な高さに、なっていますか？
- (2) 十分な締め固めが、できていますか？
- (3) 平坦な仕上げに、なっていますか？
- (4) 小石の集まりや浮石が、ありませんか？

注) 施工前に必ず路盤の確認を行い、不良箇所が発見された場合は、直ちに路盤の補修を現場監督に申出、手直し後、工事に入ります。

◆用意するもの：水糸、メジャー、コンベックス



- 小石の集まりや浮石は取り除きます。
- 路盤表面の隙間は埋めます。

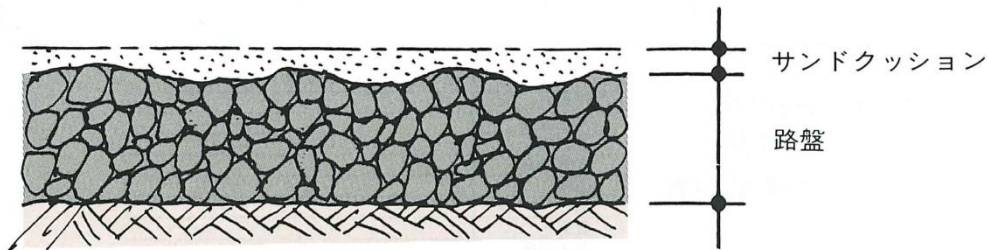
▲水糸とメジャーによる路盤の平坦性を確認。

※ ILブロック80mm(60mm)+サンドクッション30mmの110mm(90mm)下がりが、路盤の適正高さです。

悪い例
デコボコで弱い路盤

インターロッキングブロック（以下、ILブロックと称する）
敷設後に生ずる 不陸の原因(1)

- ① 路盤の転圧が不十分。
- ② 路盤の凹凸が大きい。
- ③ フッション砂の厚さが不均一。

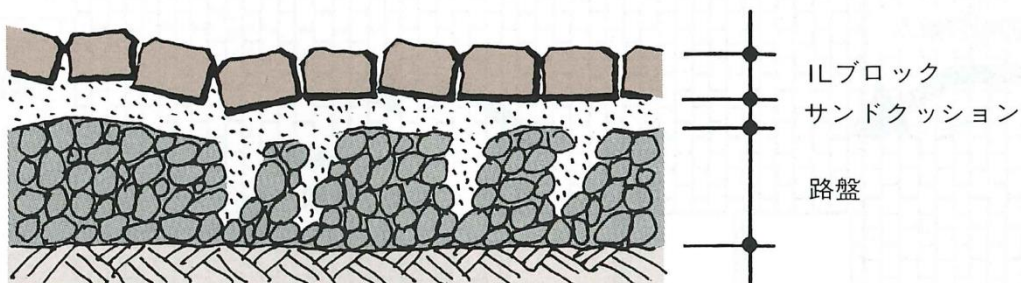


※ サンドクッションの適正厚さは、30mm±10mmを標準目安とします。

悪い例
クッション砂が路盤に浸入

不陸の原因(2)

- ① 路盤材にクラッシュラン、再生砕石等が使用される場合。
- ② 路盤に隙間ができ、目地から浸透した雨水等によりクッション砂が路盤に入り込む。



※ 不陸整正を十分にします。
(水勾配のとり方は、P28～P29を参照。)

以上